

2020年3月期 第3四半期

決算説明会資料

2020年2月10日

東証1部 コード6569
 **日総工産株式会社**

発表のポイント

■ 2020年3月期 第3四半期実績

- ・ 電子デバイス関連は本格的な回復には至らず
- ・ 前年同期比では増収減益となる

■ 通期見通し

- ・ 厳しい事業環境が続くと判断し、通期見込みを下方修正

発表のポイント

- ・ 2020年第3四半期実績において、下期以降に電子部品の回復を見込んでいましたが、回復が後ずれしたため、売上高は伸びず、また回復を見込んで、技能社員を中心とした育成のための投資を継続して行っていたことなどにより増収減益となりました。
- ・ 今後の動向も引き続き厳しい見込みであることから修正を行いました。

- 1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要**
 - 1-1 活動の概況**
 - 1-2 今後の見通し**
- 2. 2020年3月期 業績予想**
- 3. トピックス**
- 4. 株主還元方針**
- 5. 補足資料**

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

・はじめに、2020年3月期第3四半期決算概要についてご説明いたします。

2020年3月期 第3四半期 単体業績ハイライト



- 売上高は、自動車アカウント企業グループが好調に推移したが、電子デバイスでは本格的回復が遅れていたことや稼働状況が低調に推移したことなどにより、前年同期比9.6%増に留まる
- 費用面では、採用費用や研修費用が増加し、営業利益は前年同期比5.3%減となる

(単位：百万円)

	19年3月期3Q		20年3月期3Q		対前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	46,931	100.0%	51,433	100.0%	4,501	9.6%
売上総利益	8,514	18.1%	9,040	17.6%	525	6.2%
販管費	6,492	13.8%	7,125	13.9%	632	9.7%
営業利益	2,021	4.3%	1,915	3.7%	▲ 106	▲ 5.3%
経常利益	2,011	4.3%	1,917	3.7%	▲ 94	▲ 4.7%
四半期純利益	1,320	2.8%	1,304	2.5%	▲ 16	▲ 1.2%

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

4

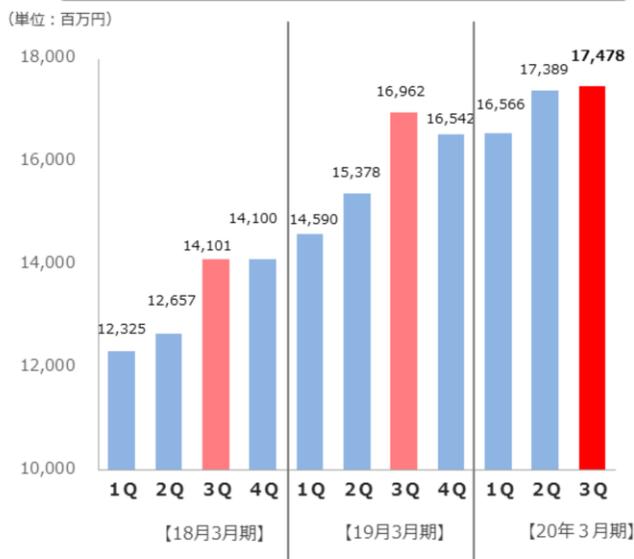
・2020年3月期第3四半期の日総工産単体業績についてご説明いたします。

- ・売上高につきましては、514億33百万円(前期比45億1百万円、9.6%増)となりました。
 - ・売上総利益につきましては、90億40百万円(前期比5億25百万円、6.2%増)となりました。
 - ・販管費につきましては、71億25百万円(前期比6億32百万円、9.7%増)となりました。
 - ・営業利益につきましては、19億15百万円(前期比1億6百万円、5.3%減)となりました。
 - ・経常利益につきましては、19億17百万円(前期比94百万円、4.7%減)となりました。
 - ・四半期純利益につきましては、13億4百万円(前期比16百万円、1.2%減)となりました。
- ・自動車のアカウント企業グループでは、新車投入を行った企業からは計画通り受注を頂きましたが、新車投入以外の企業やアカウント以外の自動車メーカーでは当初計画より少し下ぶれとなりました。
 - ・電子部品では、10月くらいに半導体が底を打ったこともあり、下期くらいから全体が回復する見込みを持っておりましたが、実際には全体の回復は後ずれしております。
 - ・稼働状況は全体として低調に推移いたしました。特に時間外稼働(残業)は、第3四半期内で増加すると見込んでいましたが、実際には引き続き厳しい状況で推移いたしました。
 - ・当社の成長戦略の要である技能社員の登用と育成について、来期以降に繋がるため投資を継続したことにより、研修費用が増加いたしました。

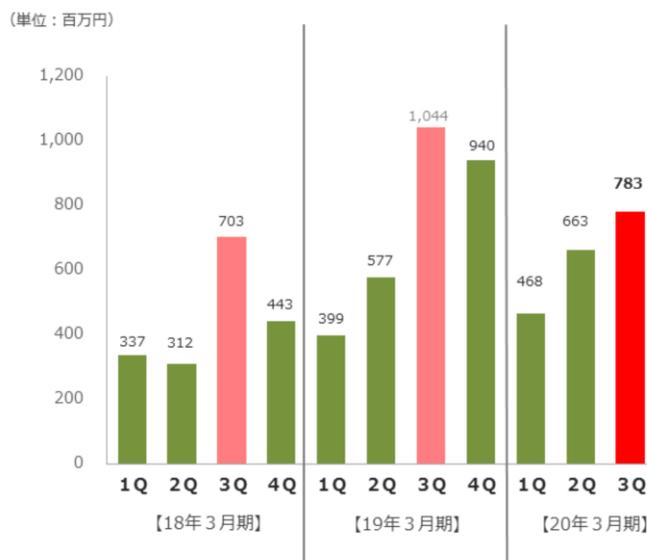
2020年3月期 四半期単位の単体業績推移



売上高



営業利益



Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

5

- ・日総工産単体の売上高と営業利益の四半期単位の推移グラフとなります。
- ・2020年3月期第3四半期の売上高は、四半期単位では過去最高となりました。しかし、第3四半期は一番利益が出やすい四半期であり、第3四半期の在籍数であればもっと売上高が伸びても良いのですが、残業が減少していることや有給休暇取得が増加したことなどが一人当たりの売上高に影響いたしました。また、研修費などの費用が増加したため、前期の第3四半期より営業利益は減少しております。

2020年3月期 第3四半期 連結業績ハイライト



- 総合人材サービス事業：技能社員、アカウント企業戦略を引き続き展開
自動車関連が順調に推移し売上高増加となるが、費用の増加により増収減益となる
- その他の事業：すいとぴー東戸塚入居者増加により売上高増となるが、入居者増加に向けた人件費等が増加

(単位：百万円)

	19年3月期3Q		20年3月期3Q		対前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	51,219	100.0%	55,718	100.0%	4,499	8.8%
売上総利益	8,977	17.5%	9,515	17.1%	537	6.0%
販管費	7,022	13.7%	7,619	13.7%	596	8.5%
営業利益	1,954	3.8%	1,896	3.4%	▲ 58	▲ 3.0%
経常利益	1,971	3.8%	1,940	3.5%	▲ 31	▲ 1.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,286	2.5%	1,307	2.3%	20	1.6%

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

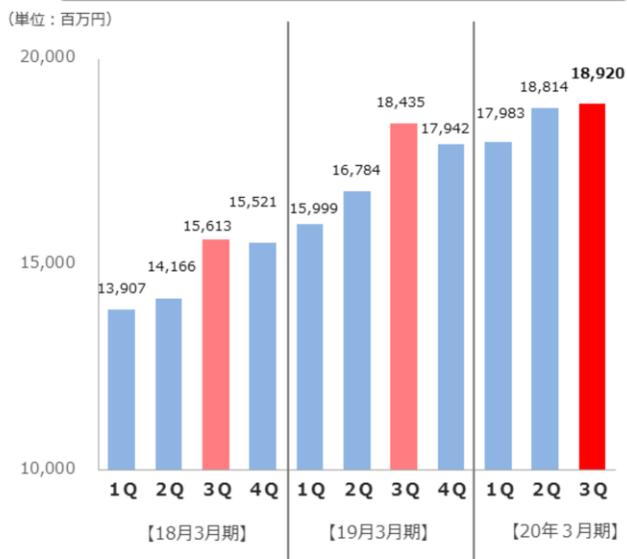
6

- ・2020年3月期第3四半期の連結業績についてご説明いたします。
- ・売上高につきましては、557億18百万円(前期比44億99百万円、8.8%増)となりました。
- ・売上総利益につきましては、95億15百万円(前期比5億37百万円、6.0%増)となりました。
- ・販管費につきましては、76億19百万円(前期比5億96百万円、8.5%増)となりました。
- ・営業利益につきましては、18億96百万円(前期比58百万円、3.0%減)となりました。
- ・経常利益につきましては、19億40百万円(前期比31百万円、1.6%減)となりました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、
13億7百万円(前期比20百万円、1.6%増)となりました。
- ・その他の事業の赤字幅が縮小いたしました。

2020年3月期 四半期単位の連結業績推移



売上高



営業利益



・連結の売上高と営業利益の四半期単位の推移グラフとなります。

1-1 活動の概況

・2020年3月期第3四半期の活動の概況についてご説明いたします。

連結業績

売上高 55,718百万円
(前年同期比 +4,499百万円)
 営業利益 1,896百万円
(前年同期比 ▲58百万円)

- 売上高 前年同期比増収 (+8.8%)
- 営業利益 前年同期比減益 (▲3.0%)

業種別売上高 (対前年同期)
 自動車 …+ 31.2%
 電子デバイス …▲ 4.0 %

- 自動車は、アカウント企業Gを中心とした新規需要により増加傾向となる
- 電子デバイスは、一部の企業では増加となるが、全体では市場の影響により減少傾向となる

四半期末在籍者数
 14,638名 (前期末比+596名)
 …前年同期は+1,382名増

- 電子部品関連企業における減少が進んだが、自動車関連企業の需要増加により全体の在籍数は第2四半期末より変化なし (▲1名)

一人当たり売上高/月
 395千円 (前期末比+3.5千円)
 …前年同期は+24千円

- 高単価作業所への技能社員の配属を推進するも、稼働時間の減少 (残業休出) により一人当たりの売上高は微増に留まる

・2020年3月期第3四半期のサマリーとなります。
 詳細は各ページにてご説明いたします。

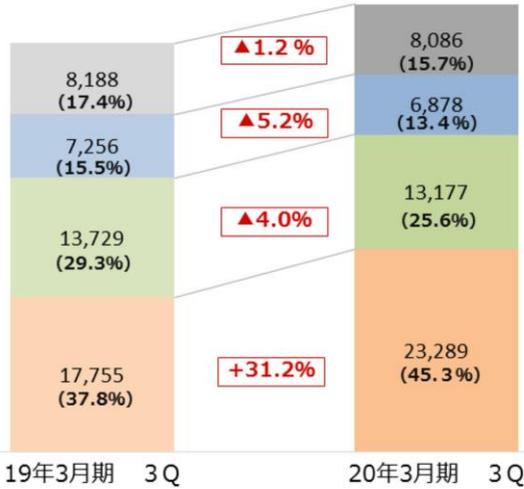
2020年3月期 第3四半期業種別売上高（単体）



売上高構成比推移

(単位：百万円/%)

自動車 電子デバイス 精密・電気機械 その他



電子デバイス

一部の半導体企業では需要増加となるが、下期に見込んでいた5G関連をはじめとする需要の増加は来期以降にずれ込み、電子部品関連企業の多くは未だ本格的な回復には至らず、売上高は減少となる

自動車

アカウント企業Gにおける新車種の投入、自動車部品企業からの需要増加により売上高は増加となる

※ () 内%は全売上高比、□内%は、対前年同期比伸長率

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

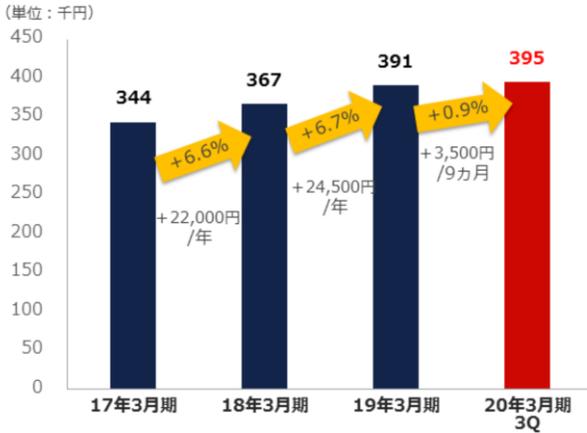
10

- ・日総工産単体の業種別売上高についてご説明いたします。
- ・前年同期に対し、伸びている業種は自動車関連のみ(前年同期比31.2%増)となりました。一部のメーカーでは期中から厳しい状況になってきておりますが、アカウント企業グループでは、想定通り新車種投入した企業への配属が進み売上高は増加いたしました。
- ・その他の電子デバイス、精密・電気機械は減少いたしました。想定では、半導体、電子部品、受動部品などの分野が回復すると見込んでいましたが、米中通商問題や5G関連が伸びなかったことなどにより、回復には至りませんでした。

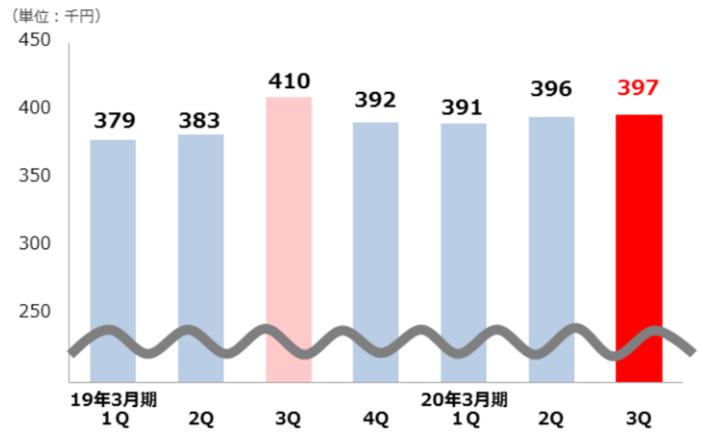
一人当たり売上高推移（単体）

- 2020年3月期3Q累計 一人当たり売上高395千円
- 高単価の自動車アカウント企業を中心とした配属を推進したが、全体としては、稼働時間の減少により一人当たり売上高は微増に留まる

一人当たり売上高（月平均換算）



一人当たり売上高（四半期単位）



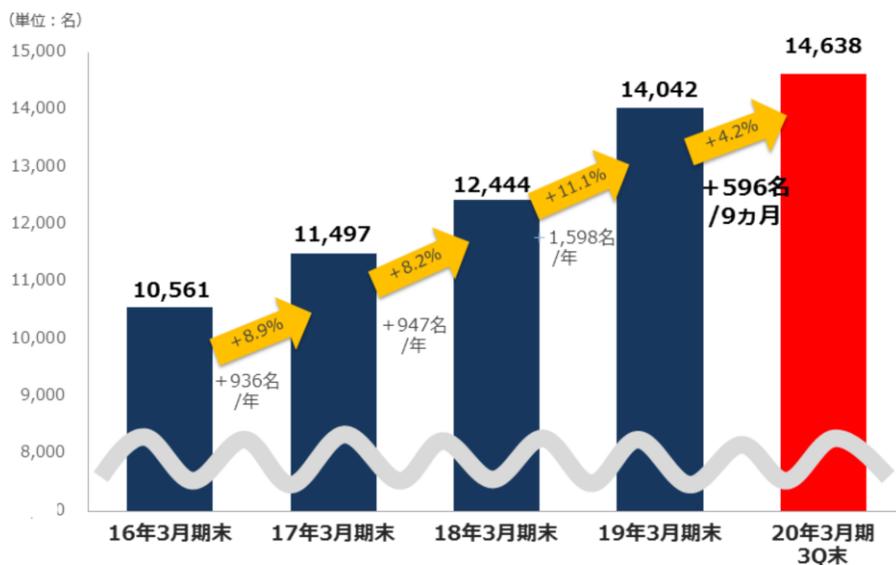
Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

11

- ・一人当たり売上高についてご説明いたします。
- ・2020年3月期の第1四半期、第2四半期の四半期単位の一人当たり売上高は、前年同期期に対し、それぞれ1.2万円、1.3万円と増加しておりましたが、第3四半期では、前年同期41万円に対し39.7万円と減少いたしました。
受注単価につきましては10月以降、上がっておりますが、取引先の製造現場が弱含みで推移したことにより稼働状況が当初の計画より下がったことや有給休暇の取得が増えたことが影響し、四半期単位の一人当たりの売上高は前年同期期に対し、減少いたしました。

在籍推移（単体）

期末在籍人数の推移



対前期末比 596名 (4.2%)
対2020年3月期2Q ▲1名

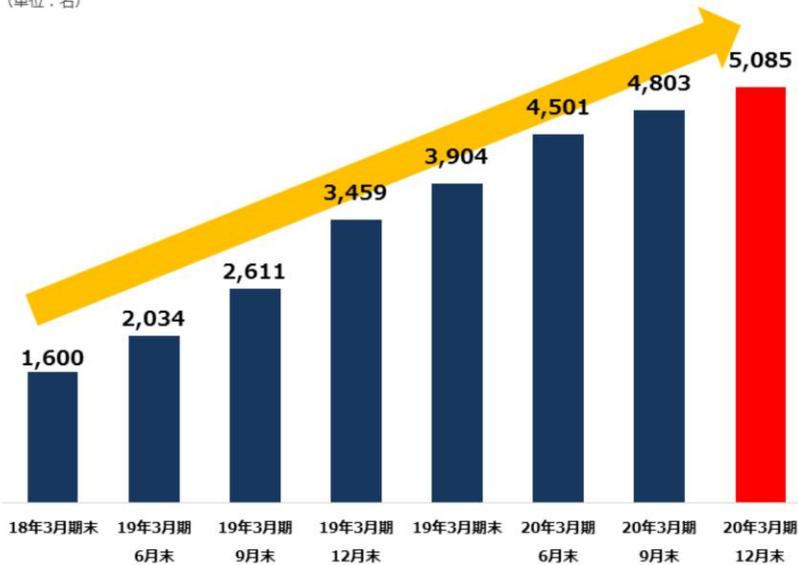
自動車関連企業は増加
電子部品、精密・電気機械関連
企業では在籍が増加した半導体
企業もあったが、電子部品の生
産減少傾向により、全体では
2020年3月期2Q末在籍数と
変わらず

- ・在籍推移についてご説明いたします。
- ・2020年第3四半期末在籍数は14,638名、第2四半期末より1名減となりました。
- ・自動車関係は新車投入した企業への配属があったことなどにより、在籍数は引き続き増加いたしました。
- ・電子部品関係では、自動車関連部品が増産となった企業もありましたが、通信機器関連部品は減産となり、全体としての在籍は減少いたしました。
- ・これらにより、2020年3月期第3四半期末在籍数は、第2四半期末からほぼ横ばいとなりました。

技能社員数（単体）

技能社員数推移

（単位：名）



技能社員は計画通りに増加
但し、配属先の稼働状況が低調
で推移したため、大幅な売上高
増加には結びつかず

今後の成長に向け、引き続き
戦略的に育成と配属を進めて
いく

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

13

- ・技能社員数についてご説明いたします。
- ・2020年第3四半期末の技能社員在籍数は5,085名となりました。
- ・技能社員の活用は中長期戦略であり、これから電子部品関連の需要が増加したときに、技能社員を核とした配属を進めていくことにより、シェア拡大を図ってまいります。
- ・技能社員の育成については、売上高や利益のバランスを見ながら、引き続き投資を行ってまいります。

アカウント企業について（単体）

アカウント企業グループ売上高と構成比

（単位：百万円/%）



2020年3月期3Qにおけるアカウント企業売上高シェア率は43.8%となる
（2020年3月期2Q 44.1%）

自動車企業G・・・新車種投入などにより大幅に伸張、技能社員の積極的配属により売上高増加となる
電機企業G・・・引き続き半導体関係の生産が好調、研修修了者を配属し、売上高増加となる
電子部品企業G・・・一部は増加するが、全体として市場回復には至らず、売上高は減少となる

	19年3月期3Q	20年3月期3Q	増減
アカウント計(4G)	20,088	22,543	2,454
全売上	46,931	51,433	4,501
構成比	42.8%	43.8%	1.0P

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

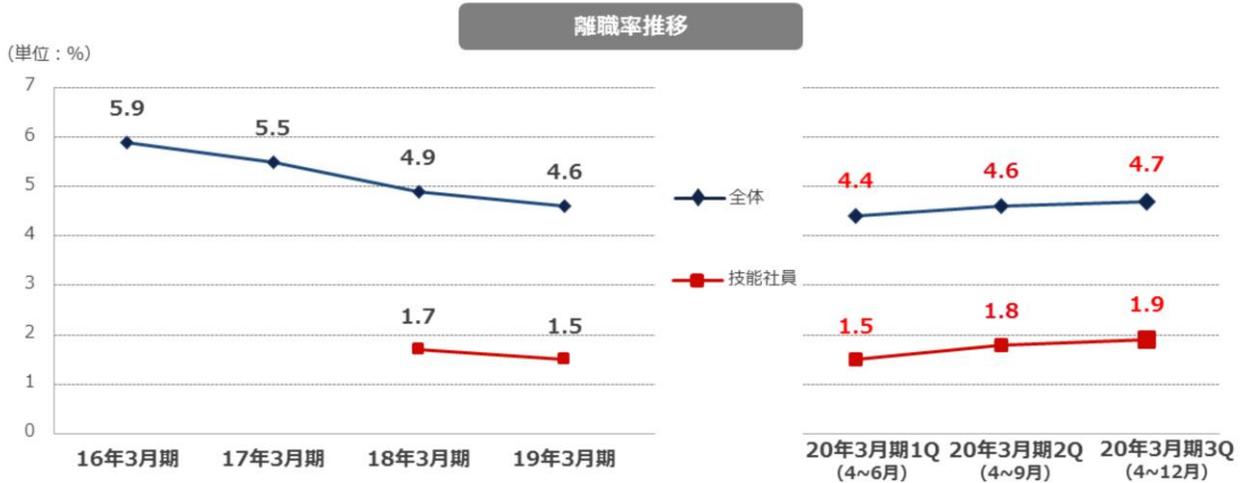
14

- ・アカウント企業の状況についてご説明いたします。
- ・2020年3月期第3四半期のアカウント企業のシェアは43.8%、2020年3月期第2四半期の44.1%より0.3ポイント減となりました。
- ・自動車企業グループは、新車投入などがあり、引き続き増加いたしました。電子部品企業グループでは、通信機器関連の受動部品領域が回復には至らなかったことなどにより減少いたしました。
- ・今後について
自動車企業グループでは、新車投入している工場は引き続き好調であります。それ以外では少しブレーキがかかってきた状況にあります。
電機企業グループ内の半導体企業の状況は、第2四半期から大きな変化はございません。半導体の大型工場の設備保全メンバーは計画より強含みで配属させて頂いておりますので、必ず拡大すると見込んでおりますが、量産に本格的に入るのはこれからまだ先であると考えております。
電子部品企業グループでは、受動部品を中心とした領域は、もう少し市場回復に時間がかかると見込んでおります。
- ・今後において、我々が読み切れない非常に大きな事象として、新型コロナウイルスの影響がサプライチェーンにどのように出てくるのかというのがございます。今回、業績見込みの修正を行うにあたり、多くのお客様と話をしましたが、まだ分からないことが多く、サプライチェーンへの影響がこれから期末、来期初めにどれだけ出るのか、現時点では織り込み切れないこともあると認識しております。

離職率（単体）

- 2020年3月期3Q 全体の離職率は4.7% （対2019年3月期 +0.1P）
技能社員の離職率は1.9% （対2019年3月期 +0.4P）

■ 生産減少により縮小となる職場が増加、他職場への異動を促進したが、離職率は上昇



- ・離職率についてご説明いたします。
- ・2020年3月期第3四半期の離職率は、全体で4.7%、技能社員は1.9%となりました。
- ・顧客の需要が減少する職場があり、他の職場への異動を進めておりましたが、この異動には本人の意向もあるため、離職率は上昇しております。
- ・2020年3月期第2四半期、第3四半期では、異動に伴うコストが発生しておりますが、異動の方法や就業者の適性の見方など、さまざまな施策を打ったことにより、現在の離職率は低下傾向となっております。今後においてもこれらの打ち手をさらに増やすことにより、離職率の低下を目指してまいります。
- ・技能社員の離職率についても、同様に低下に推移しはじめている状況でございます。

教育実績（単体）



第3四半期コース別教育実績（延べ人数）

（単位：名）

研修名	2Q (7~9月)	3Q (10~12月)		20年3月期 3Q累計	(参考) 19年3月期 累計
技能社員教育	483	589	技能社員スタンダード教育	1,465	2,522
認定訓練教育	57	38	認定職業訓練校（宮城県・長野県）	167	318
製造教育	717	1,526	ものづくり教育 製造スタッフ配属前実習、移動教育等	2,555	3,047
安全教育	1,182	1,258	危険体感教育	2,602	1,322
保全基礎教育	65	82	設備保全基礎教育	186	167
社員教育	115	112	新卒研修、途中入社者研修、中堅社員 研修、新任主任教育、業務管理者教育	411	292
その他			外部受託教育	28	22
合計	2,619	3,605		7,414	7,690

技能社員教育受講者は増加
修了者は主に自動車関連、
半導体企業へ配属

保全基礎教育受講者は増加
需要が拡大している半導体
製造企業に配属
今後も顧客需要は増加を見
込む

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

16

- ・教育実績についてご説明いたします。
- ・教育の中でも、技能社員教育、製造教育、設備保全教育が、これからシェアを上げていく、あるいは単価を押し上げていくことに非常に重要な役割を果たします。
- ・これからの成長に向け、引き続き、能力が高く、定着率の良いメンバーを技能社員教育の中で育成してまいります。この定着率を上げることにより、他社の離職者補充の枠に配属することが進み、シェア拡大に繋がります。このように教育を行うことで定着を上げれば、生産量の増加に関わらず当社の在籍数が増加していくことが可能となります。
- ・受講者数はまだ少ないですが、第3四半期の3か月間で82名の設備保全の人材の育成を行っております。この育成状況は、当社研修施設の能力一杯のところであり、ここで育成したメンバーが半導体企業の設備保全を中心に配属されております。
- ・この設備保全が非常に重要であるというのは、量産に入った時に設備稼働率を上げることができれば、生産性は向上し、顧客満足度が高まるということ、またそのことが、量産時のオペレータのオーダーを頂けることに繋がります。このように、設備保全のメンバーとオペレーターと一緒に派遣する、あるいは請負という取り組みは、これからの私共の成長にかかせない大きなポイントとなります。

その他の事業 事業収益



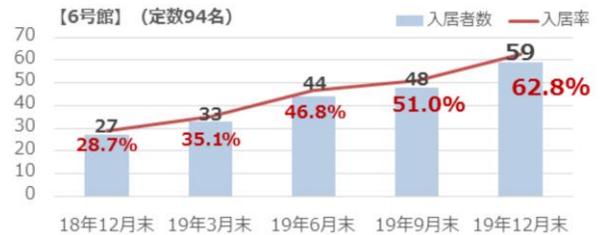
その他の事業実績

(単位：百万円/%)

	19年3月期 3Q		20年3月期 3Q		対前年同期比		19年3月期	20年3月期
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率	通期	通期見込み
売上高	1,851	100.0%	2,068	100.0%	217	11.7%	2,485	2,799
経費	2,044	110.4%	2,084	100.8%	40	2.0%	2,732	2,840
営業損失	▲192	▲10.4%	▲16	▲0.8%	176	-	▲247	▲41

- 売上高は、6号館入居数増に伴い増加するが、想定入居者数に対しては未達となる
- その他施設（1～5号館）は、高入居率を維持
- 入居者数未達およびサービス安定化を企図したヘルパー投入による原価増の為、通期営業損失は▲41百万円見込み

施設入居者数推移



Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

17

- ・その他の事業についてご説明いたします。
- ・2020年3月期第3四半期の営業損失は1,600万円、通期では4,100万を見込んでおります。今期は通期での黒字を目指して進めてまいりましたが、6号館の入居のスピードが想定より遅れたことと入居者の増加およびサービス向上のための投資を行ったことより、通期では赤字となる見込みでございます。
- ・但し、入居状況はどんどん遅れているといくということではなく、遅れに対するさまざまな打ち手が効き始め、少しずつ当初計画したスピードに追い付き始めております。今の計画では、来期第1四半期末時点で、94名の定員に対し、80名までの入居者の目途が立っておりますので、そこから黒字化へ向かう見込みです。
- ・1～5号館は308名の定員に対し、入居者数は300名に近づき始めており、順調に推移しております。

1-2 今後の見通し

・今後の見通しについてご説明いたします。

製造業全体…米中通商問題の影響、個人消費の低迷などにより、厳しい状況を見込む
自動車…国内生産は従来と同様の成長は見込めず
電子デバイス…一部では回復の兆しが見られるものの、業界全体の回復時期が来期以降にずれ込むことが予想される

顧客市場における人材需要は弱含みの推移となる見込み

※人材育成への投資は市場動向を適切に判断し、引き続き行っていく

※主たる企業別施策

(自動車企業) メーカーとの関係をさらに強化すると共に配属人員の質を高め、シェア拡大を図る

(半導体企業) 今後の成長拡大を見据え、設備保全者の育成と配属を推進、OP需要を確保する

(電子部品企業) 次期増産に向け、設備保全+OPの体制で、生産性、稼働率を高める

- ・今後の市場動向と対応についてご説明いたします。
- ・製造全体としては現状に加え、新型コロナウイルスの影響が不明ということもあり、人材需要は従来のような圧倒的な強含みで推移することは難しいと認識しております。
- ・自動車の国内生産は、右肩上がりでも上がり続ける状況とはならず、メーカーあるいは工場によって状況は若干異なりますが、ほぼ横ばいの状態で推移すると見込んでおります。
- ・電子デバイスは、既に底を打っており、アカウント企業の一部では増産に転じ始めましたが、全体の回復は来期の第1四半期以降になると見込んでおります。但し、新型コロナウイルスがサプライチェーンにどう影響を与えるかということが現時点では不明であり、状況によっては回復時期も変わってくる可能性もございます。
- ・このように、弱含みの推移になる見込みではありますが、当社の取り組みとして、自動車関係では、アカウント企業グループが堅調に推移しておりますので、技能社員の配属を進め、シェア拡大を図ってまいります。半導体企業では、設備保全メンバーのオーダーは当初の約1.5倍頂いておりますので、フルに育成を進め、シェアを確保し、次の増産時のオペレータの需要を確実に取得することを進めてまいります。電子部品関係では、アカウント企業グループは請負現場が多いので、設備保全人員などの強化を行ってまいります。今後、生産は上がると見込んでおりますが、これらの取り組みにより、さらにシェア拡大を図ってまいります。

今後、製造現場ではIoT、人工知能、ロボット技術といったテクノロジーの進化や製品ライフサイクルの短期化などに伴い、環境が大きく変わっていくことが予想されます。当社では、この変化をチャンスとして捉え、より早く、より大きく成長するための計画を策定してまいります。

【成長ストーリー】

- 当社基本戦略「アカウント企業を中心とした重要顧客に技能社員を配属することで単価の引き上げと収益性向上を目指す」のブラッシュアップを図り、アカウント企業の成長分野への進出、より高度な顧客ニーズに対応したサービスを提供できる技能社員をはじめとした人材の育成を推進する
- 生産技術領域へ従来以上の投資強化を行い、新たなビジネスモデルとして確立し、事業領域の拡大を図る

※詳細は、2020年5月に発表予定の中期経営計画にてご説明いたします。

- ・中長期の成長について、詳しくは2020年5月の本決算時に新中期経営計画として発表させて頂く予定です。
- ・現在検討している新中期経営計画の骨子についてご説明いたします。
- ・製造現場では、現在のアカウント企業を中心としたビジネスモデルをもう一段、ブラッシュアップして他社との差別化を図ることと、もう一つはアカウント企業以外あるいはアカウント企業の異なる分野に進出していくことを検討しております。
今、製造現場は、新しい技術革新の影響を受けており、既に従来のもの作りから、変化しはじめている企業もあります。この変化する環境の中で生産現場、あるいは開発分野の変化にどう対応していくかということですが、お客様からは、いわゆる生産技術の領域をしっかりとまかせられる会社であれば、事業領域は拡大できるというお話を頂いており、当社では、生産技術と製造分野を両輪で回し、シェア拡大を図る計画を検討しております。この計画は、当社内だけで進めていくのではなく、M&Aあるいはアライアンスなどにも積極的に活用し、当初の中期経営計画を少しでも前倒しで実現できるよう検討を進めております。
- ・当社は人材をはじめ多くのビッグデータを保有している会社ですので、このビッグデータのより効果的な活用に向け、デジタル領域に強い会社とアライアンスを組むことも視野に入れ、取り組んでいく計画でございます。

2. 2020年3月期 業績予想

・2020年3月期の見通しについてご説明いたします。

2020年3月期 連結業績見込み



当社は最近の業績動向を踏まえ、2019年5月10日に公表いたしました2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期連結業績予想を修正いたしました。

◆2020年3月期通期連結業績予想数値（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円/%）

	期初見込み	修正	対期初見込み比		19年3月期 実績	前期比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	80,000	74,300	▲ 5,700	▲ 7.1%	69,161	5,138	7.4%
営業利益 (利益率)	3,900 (4.9%)	2,700 (3.6%)	▲ 1,200	▲ 30.8%	2,869 (4.1%)	▲ 169	▲ 5.9%
経常利益 (利益率)	4,000 (5.0%)	2,750 (3.7%)	▲ 1,250	▲ 31.3%	2,895 (4.2%)	▲ 145	▲ 5.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (利益率)	2,760 (3.5%)	1,840 (2.5%)	▲ 920	▲ 33.3%	2,053 (3.0%)	▲ 213	▲ 10.4%

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

22

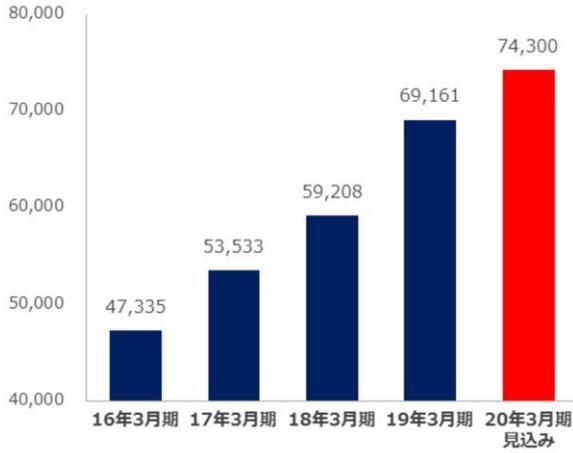
- ・2020年3月期の通期連結業績見込みについてご説明いたします。
- ・当社は最近の業績動向を踏まえ、通期連結業績予想を修正いたしました。
- ・売上高につきましては、743億円（期初見込み比 57億円、7.1%減）といたしました。
- ・営業利益につきましては、27億円（期初見込み比12億円、30.8%減）といたしました。
- ・経常利益につきましては、
27億50百万円（期初見込み比12億50百万円、31.3%減）といたしました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、
18億40百万円（期初見込み比9億20百万円、33.3%減）といたしました。
- ・修正を行うにあたり、お客様からは新型コロナウイルスの影響によるサプライチェーンへの影響も含めた情報を頂いておりますが、現在想定している状況が変化する可能性がございます。
- ・当社グループでは3月の期末に向け、今回の修正した業績見込みを上回る結果を出すべく、社員一丸となって推進してまいります。

連結業績推移見込み



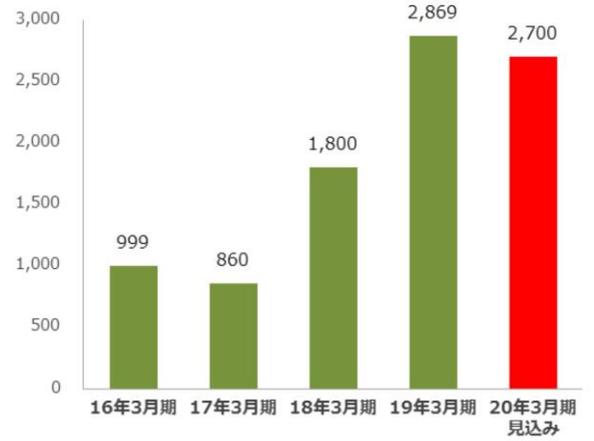
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



・修正後の連結の売上高と営業利益の推移グラフとなります。

3.トピックス

・トピックスについてご説明いたします。

株式会社ニコン日総プライム発足

"働き続けられる社会を創造する"

株式会社ニコン日総プライムは、前身である株式会社ニコンスタッフサービスの事業の一部を継承し、株式会社ニコンと日総工業株式会社のノウハウ融合と、協業によるシナジー創造を目的として2020年1月6日に新たな船出をいたしました。

ニコングループの高年齢の従業員の活躍を支援し、雇用機会の開拓と確保を進めていくことに始まり、広く社会の高年齢者が働き続けられる仕組みの研究開発を行い、「働く意欲のある誰もが、社会環境の変化に適応し、働き続けられるようになる社会プラットフォーム」を創り上げることを目指します。

ニコン日総プライムは、より良い未来を創る社会の一員として貢献できるよう挑戦していきます。

【企業概要】

社名	株式会社ニコン日総プライム (NIKON NISSO PRIME CORPORATION)
本社所在地	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-14-2 新横浜214ビル8F
代表	代表取締役 兼 社長執行役員 吉田雅彦
株主	株式会社ニコン (東証一部7731) 51% 日総工業株式会社 (東証一部6569) 49%
資本金	5,000万円
事業内容	総合人材サービス事業, アウトソーシング事業 高年齢者の活躍機会創出及び働き続けられる仕組みの構築に関する企画 ・ 研究開発 ・ 運営 ・ サポート
URL	https://www.n-prime.co.jp



- ・「株式会社ニコン日総プライム」についてご説明いたします。
- ・2020年1月6日に株式会社ニコン日総プライムがスタートいたしました。
- ・当社では、人材ビジネスにおける幅広い経験を活かし、日本の大手メーカーの中高齢の方々の活躍の場を作ることを検討しておりましたが、このニコン様との取り組みの中で、仕組みを構築し、他のメーカー様への展開を進めてまいります。

2020年 オリコン顧客満足度®ランキング「製造派遣」で当社が 2年連続第1位に選出されました

設定された6つの評価項目全てで1位を獲得いたしました

評価項目・・・「登録・契約のしやすさ」「社内研修」「福利厚生」「担当者の対応」
「提供情報」「交渉力」

【調査概要】

調査期間：2019/9/11～2019/9/17	調査対象者
更新日：2020/1/6	性別：指定なし
サンプル数：1,155人	年齢：18歳以上
規定人数：50人以上	地域：全国
調査企業数：22社	条件：過去7年以内に人材派遣会社から派遣された企業で製造関連業務での勤務経験がある人



- ・2020年 オリコン顧客満足度®ランキング、「製造派遣」で当社が2年連続第1位に選出されました。
- ・6つ全ての評価項目でも1位を獲得いたしました。
（「登録・契約のしやすさ」「社内研修」「福利厚生」「担当者の対応」「提供情報」「交渉力」）
- ・この実績を積極的に労働市場に提供し、採用活動に活かしてまいります。

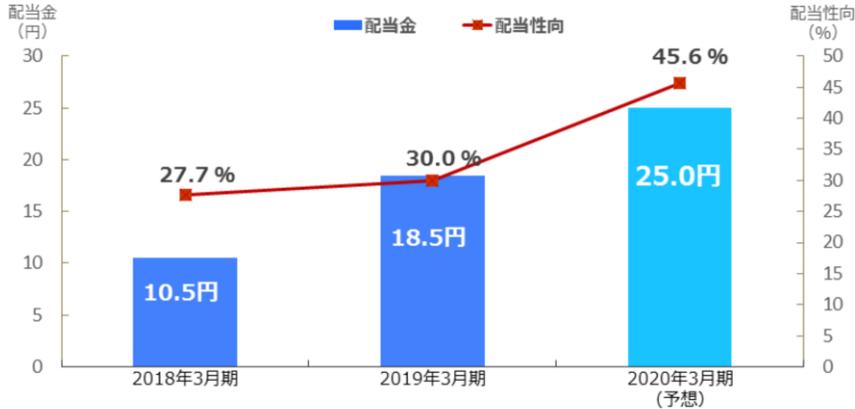
4. 株主還元方針

・株主還元についてご説明いたします。

株主還元方針



- 当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、成長投資のための資金の確保及び事業環境の変化に対応できる企業体質の強化とのバランスを考慮しつつ、株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。
- 2020年3月期の期末配当につきましては、通期連結業績の下方修正は行いましたが、2019年5月10日に「2019年3月期 決算短信[日本基準] (連結) 配当予想」で公表いたしました一株当たり配当金額 (25.00円) を変更しない予定としております。



2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2019年3月期の配当実績は、2019年5月1日付分割後の配当金額を記載しております。

Copyright © 2020 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

28

- ・株主還元方針についてご説明いたします。
- ・配当については、安定的に増やしていくという考え方に変更はございません。
- ・2019年5月10日に公表している1株あたり配当金額25円は変更しない予定であります。

5. 補足資料

連結貸借対照表



(単位：百万円/%)

	2019.3末		2019.12末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	14,174	67.4	14,318	68.2	143
現金及び預金	5,633	26.8	5,564	26.5	▲69
受取手形及び売掛金	7,757	36.9	7,901	37.6	143
固定資産	6,844	32.6	6,671	31.8	▲173
有形固定資産	4,942	23.5	4,944	23.6	1
無形固定資産	359	1.7	400	1.9	40
投資その他の資産	1,542	7.3	1,327	6.3	▲215
資産合計	21,019	100	20,989	100	▲29
流動負債	9,161	43.6	8,480	40.4	▲681
未払費用	4,751	22.6	4,859	23.2	108
未払法人税等	742	3.5	192	0.9	▲549
賞与引当金	738	3.5	440	2.1	▲298
固定負債	1,312	6.2	1,307	6.2	▲4
長期借入金	750	3.6	658	3.1	▲92
負債合計	10,474	49.8	9,788	46.6	▲686
株主資本	10,535	50.1	11,236	53.5	701
純資産合計	10,544	50.2	11,201	53.4	656
負債純資産合計	21,019	100	20,989	100	▲29

Point

①株式売却

政策保有株式の売却により、固定資産（投資その他の資産）が減少

②納税等

法人税等及び賞与の支払いにより、流動負債が減少

③全体

上記及び利益計上により、負債が減少し、純資産が増加

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

〈 I R に関するお問い合わせ先〉

日総工産株式会社 広報・IR本部 IR部

電話 : 045-777-7630

E-mail : ir@nisso.co.jp

URL : <http://www.nisso.co.jp/>